

※各問の出典の記入は自由とする。

問一 次の文字を、楷書・行書・草書・隷書の四体で書きなさい。

林 泉 皆 道 情

問二 次の『書譜』を、解答欄の大きさにあわせて調和よく臨書しなさい。



(神融筆暢)



問三 次の質問に、漢字で答えなさい。

1 漢時代に篆書を簡略化し、速書きする中で生まれた書体で、うねるような運筆のリズムと波磔が特徴的な書体を何というか。

2 初唐の三大家を漢字で書きなさい。

問四 次の文章を、漢字は行書、または、草書で調和よく書きなさい。

日本人は恥辱感を原動力にしている。明らかに定められた善行の道標に従えないこと、いろいろの義務の均衡をたもち、または起こりうべき偶然を予見することができないこと、それが恥辱である。恥は徳の根本である、と彼らは言う。

(ルーズ・ベネディクトの文章より)

問五 次の俳句を、調和よく散らし書きしなさい。漢字は仮名に変えてもよい。

(連綿や変体仮名をいくつか使いましう)

山越えて空わたりゆく遠鳴の風ある日なりやまざくら花 (若山牧水)

問六 次の詩を、問六解答用紙に情趣を考慮しながら筆ペンで調和よく書きなさい。

荒城の月

土井晩翠

春高樓の花の宴

秋陣営の霜の色

めぐる盃 影さして

鳴き行く雁の 数見せて

千代の松が枝 わけ出でし

植うるつるぎに 照りそひし

むかしの光 今いづこ

むかしの光 今いづこ